

時の動き

産別最賃をストで闘う

郵政産業労働者ユニオン
中央本部執行委員 倉林 浩

郵政の労働者の内、スタッフ社員と呼ばれる非正規雇用は12万人です。スタッフの時間給は、各地の最低賃金プラス20円に時給が設定されています。リアルな問題では、千葉では全く人が集まらない。東京に行けば、時給が1000円から始まります。千葉では900円に満たない額からスタートからです。このように地域間格差があるため、郵政一律最低賃金を要求し、闘う根拠にします。毎年、2月にスト権投票を行い、春闘に入ります。

最賃が決まる時期の闘いはできないか
今、議論を始めているのは、春闘では最賃闘争はできないのではないかとということ

です。要求の立て方です。10月に最賃が決定という時期に、郵政ユニオンのストライキが可能になるような仕組み、流れを作れないか相談しています。このように郵政ユニオンとしての最賃闘争を考えています。

23 地本でストに突入

今春闘 3月23日郵政ユニオン全国23地本が12拠点でストライキを打ちました。参加人数は87名で、特徴は30名近い非正規労働者が参加したことです。当初のストライキは雪の中、3月下旬の北海道です。今年、北海道地本は札幌での局前集会で、全国に連帯し、頑張るということになりました。東北地本は今年是一名がストに起ち

上がりました。盛岡中央郵便局の期間雇用社員の20代の仲間です。彼は活動家ではありません。東北地本の正社員の組合員の仲間たちが彼を包み込むという形で決行しました。

胸を張り、ストライキ突入宣言

千葉中央郵便局では最低賃金の問題とからみですが、深夜勤務オンリーで働いているスタッフ社員の仲間たち、数十名がいまです。10月、11月、12月の郵、バックが増える時期、人手不足でアルバイトを雇いたいが集まらない。そこで局は時給を上げる期間雇用の仲間より、時給を200円くらい上げ、月で数万円以上差ができる。千葉ではその矛盾の改善要求を掲げて闘いました。

アルバイトの時給を下げるではなく、この時期だけでも「自分たちの時給を上げる」ということで交渉を申し入れました。交渉は行われず、深夜勤務の労働者が夜10時から朝6時まで8時間ストを打ちた

◆時の動き

いという希望があった。全国で、となると、労使関係が緊張する。そこで早朝4時に突入し、6時までの2時間ストになりました。千葉中央支部が準備して、1月になり、「自分は組合員にはなりたくないがストには参加したい」という仲間がいました。結局は10名が組合員になりました。深夜勤務の30名の大半は郵政ユニオンの仲間です。

闘いの中で職場の主人公は明らかに

昨年マイナンバー通知の全国5700万世帯への配達がありました。全世界配達は何度も経験していますが、今回は11月中の極めて短期間で、2度と無いだろうと言われていました。個人情報関係で絶対に間違ってはならないという、非常に緊張状態の中での連日の長時間労働でした。中央本部の集計では24日間連続で勤務したという実態も報告されています。

この過酷労働を担ったのが、半数以上の期間雇用の労働者でした。奈良郵便局で

長が全体ミーティングで「絶対に間違は許さんぞ」と言ったところ、期間雇用の組合員がその場で意見を言いました。局長が「なに言っているんだ」と言って押さえ付けようとした。そうしたら、別の組合員が怒りの言葉で抗議しました。暴言だから始末書を書くようなことになりそうになった。しかし、連日の過酷労働の中で誰が職場の主人公なのか明らかになった。そのためか処分はされず現在に至っている。そして奈良支部はストライキに突入しました。

通常のストは始業から一時間ストですが、午後3時間ストを打ちたいという希望に、中央本部はそれで行くことにしました。当日スト突入者7人中5人が期間雇用社員でした。局長に意見を言おうとした彼ですが、大音声で「これより郵政ユニオン奈良支部は、要求を掲げてストライキに入る」と宣言しました。その時、彼らは顔を紅潮させ、胸を張っていました。彼、書記次長ですがストライキ宣言をした時、職場は静まりかえっていたと喜んでいました。

非正規とは正規が非正規の

待遇を受けていることだ

彼らは去年のストライキの中でこう言っていました。「非正規労働者というのは、労働者として非正規なのではない、非正規労働者というのは正規の労働者が非正規の待遇を受けている事だ」と。それで「自ら非正規労働者と堂々と名乗るのだ」と。これを聞いて、中央本部としてこれまででもやりましたものがありました。すっきりしました。

最後になりますが、本部として通年的に最賃に有効な時期にストライキを打つ仕組みを考えていることと、郵政ユニオンとして非正規の闘いはしているが、本部役員は正規社員が大半です。日本郵政など本社交渉は全員が正社員です。これでは均等待遇を要求して闘っているが、迫力がない。できるだけ早く非正規の中央本部役員が本社と渡り合う場面を作るために、全力で頑張りたいと思います。

(くらはやし ひろし)